

第19回大口町地域交通推進会議（大口町地域公共交通会議）議事録

日時 令和2年1月20日

午前10時30分 開会

場所 大口町役場3階第5委員会室

◇出席委員

松尾幸二郎会長 近藤時男委員（職務代理者） 伊藤浩委員 服部良一委員 山田吉昭委員
近藤幸男委員 前田一紀委員 酒井貞夫委員 馬場輝彦委員 長谷川裕修委員（代理 柴田氏）
小川賢二委員（代理 高岸氏） 渡邊重之委員（代理 児玉氏） 大矢玄康委員
小林裕之委員（代理 栗木氏） 松浦秀則委員 工藤彰郎委員

◇欠席委員

大森邦代委員 大口町副町長（不在）

◇出席職員

地域協働部長 天野浩
町民安全課長 岩崎義宏
町民安全課 主査 清水学
町民安全課 主事補 平子靖子
町民安全課 主事補 稲葉悠斗

◇議 事

1 開会

進行 町民安全課 主査 清水

2 会長挨拶

松尾幸二郎会長

3 町長挨拶

公務により挨拶後退室

4 協議事項（詳細別紙）

- (1) 大口町コミュニティバス 事業報告
- (2) 大口町コミュニティバス 1日無料DAY実施結果について
- (3) 大口町コミュニティバス 運行の目的および目標について
- (4) 大口町コミュニティバス ダイヤ等改正（案）について

5 その他

6 閉会

◇協議事項

(報告事項)

(1) 大口町コミュニティバス 事業報告

報告者：事務局 町民安全課主事補 平子

【資料1に基づき報告】

■大口町コミュニティバス 事業報告（平成31年4月から令和元年11月まで）

○11月までの実績と昨年同月比

乗車人数（パスカード利用者除く）	71,924人（103.66%）
乗車人数（パスカード利用者含む）	83,542人（99.30%）
現金収入	361万7000円（103.04%）…①
1日乗車券利用者数	2,985人（123.35%）
1日乗車券収入	10万4000円（74.29%）…②
回数券利用者数	31,888人（105.88%）
回数券収入	293万3000円（102.88%）…③
パスカード収入	251万4800円（86.68%）…④
運賃収入（①+②+③+④）	916万8800円（97.51%）

<質疑応答>

・【松尾会長】利用者数は全体として増えており、バスサポート隊含めていろいろな周知活動を行ってきた効果が少しずつ出てきた可能性があると思う。パスカード収入は、協定締結企業の利用状況もあるが、新たな展開はどれくらいしているか。

→【平子主事補】現在、コミュニティバスは4台体制で運行しており、運行体制や車両、利用者数など現在のルート外で新たな企業に声をかけることが難しく、大口町内に企業が工場等を建てる際にコミュニティバスがあるということは伝えているが、今後、ルート上に企業が工場等を建てる等具体的な提案が可能な場合には提案をしたいと考えているが、現段階では新たな企業に展開していくことはできていない。

・【松尾会長】ルート上にある企業でコミュニティバスを利用していない企業をリストアップして、どれくらいあるのか、現状で需要や可能性がどれくらいあるのか出すのがよいと思う。また、運行支援費について、従業員が利用している企業はもちろん、従業員が利用していない企業が支援を行っていることを聞いたが、そういったことがあまり表に出ておらず、自社で利用することも1つだが、地域のバスを維持するということで協賛してもらっていることを表に出すことで、新しい企業等にアプローチしやすいのではないか。企業に支援をしてもらう中で、町として感謝状を出したりはしているのか。

→【平子主事補】感謝状は行っておらず、時刻表の中にバス利用協定締結企業や広告協力企業および事業所を掲載している。

→【松尾会長】説明を受けないと気付かないので、バスというものを町、利用者だけでなく、地域で支えている、育てているという空気を作っていく必要がある。その1つとして企業とも一緒に維持しているということを出すことにより、新たな企業にアプローチにしやすいのではないかと思う。大口町は企業も利用者も一緒にやっている地域として、前向きに検討してほしい。

・【渡邊委員（代理 児玉氏）】7月にバスサポート隊によるバスツアーを企画したとのことだが、参加者にアンケートは行ったのか。

→【平子主事補】アンケートはバスツアー終了後に毎回実施しており、バスサポート隊および町民安全課で共有をしている。

→【渡邊委員（代理 児玉氏）】集約したアンケート結果を分析し、本会議で報告してもらえると情報共有ができると思う。

また、「さくら総合病院前」停留所で犬山市コミュニティバスに乗り換えることができ、町民が小牧市方面、犬山駅方面に行くことができる。犬山市と情報共有するとともに、路線図に反映する等広域的な移動が可能であることを周知してほしい。

→【松尾会長】大口町コミュニティバスの路線図だけでは、犬山市コミュニティバスが乗り入れをしていることがわからないので、路線図とは別に分かるような案内があると便利になると思う。

・【山田委員】目標および実績額の広告収入の実績額が目標よりも上がったこともあり、新たな企業が広告を出すということだと思うが、具体的にはどのような広告がプラスとなるのか教えてほしい。

→【平子主事補】平成30年度の広告収入増については、ダイヤ改正に伴い名鉄自動車専門学校が新たに車体広告を掲出いただいた。また、株式会社倉衛工業が新たにバス停広告を掲出いただけたことにより、今後増加の見込みとなる。

→【山田委員】今後展開していくにあたって、どのような方法を考えているか。

→【平子主事補】コミュニティバス以外で企業に訪問した際にも、コミュニティバスの広告を紹介、提案している。

→【松尾会長】広告収入や運行支援の目標設定はどのように設定しているか。

→【平子主事補】必ずしも前年度と同じ数値ではなく、達成ができればそれよりも高い数値、達成ができなければそれを考慮し少し減少させている。

→【松尾会長】目標の決め方によって方針が現れ、前年と同じであれば現状維持、前年より少し多くするという事は新しく展開していくこととなり、今までの話と目標は密接に連携するため、来年度の目標を決める際には、本会議の意見含めて検討してほしい。

(2) 大口町コミュニティバス 無料 DAY 実施結果について

報告者：事務局 町民安全課主事補 平子

【資料2、別紙①、別紙②に基づき報告】

令和元年度は11月3日（日）に実施し、278人の利用（前年同時期 265人）があった。
令和2年度は11月8日（日）に実施予定。

<質疑応答>

・【松尾会長】 イベント会場である「健康文化センター」の利用者数が多いが、「アピタ前」や「柏森駅」の利用も多く、この数というのは、無料デーを実施していない休日と比べてどうか。

→【平子主事補】 無料デーを実施していない日曜日の利用者は150名に満たない数である。無料デーとその他の日での比較はしていないが、利用傾向としては駅や商業施設への利用が多く、「健康文化センター」や「大口町役場」の利用者数増はイベントによる増加と思われるが、他の増加については、アンケート結果からも普段から利用している方が利用している傾向があると考えられる。

・【松尾会長】 アンケートについて、短い時間で回答できるよう項目を減らし、丸付け方式にしたことはよかったと思うが、自由意見の回答を次に活かすためにも、どこで乗ってどこで降りたかわかるようにした方がよい。便別にアンケート用紙を作成し、乗ったバス停、降りたバス停も丸付け方式にする方法がある。来年度実施する際には、検討してほしい。

(承認事項)

(3) 大口町コミュニティバス 運行の目的および目標について

報告者：事務局 町民安全課主査 清水

【資料3に基づき報告】

1 大口町コミュニティバス 運行の目的について

前回の会議で指摘があったように、現在の運行の目的は端的な目的になっており、事業全体の目的というものが記載されていないため、今一度本事業の目的を再考し、案という形で提示させていただく。

2 運行の目的および目標（案）について

資料2のとおり目的と目標という形で提案する。次回会議までにご意見等をお伺いし、次回会議で承認を得たうえで、令和2年度以降の運行の目的および目標として設定したいと考える。

<質疑応答>

・【松尾会長】 単年度目標の数値は。

→【平子主事補】 毎年度、本会議の場で事業報告を行う際に、運賃収入等細かい目標額を設定している。今回、資料3に「令和2年度の数値的目標を次のとおり設定する」と記載しているが、今年度の実績が出

ていないため、見込額ではあるものの資料1に記載している平成31年度の目標と同じくらい、もしくは少し高い数値の設定を考えている。

→【松尾会長】令和2年度の数値的目標は、今会議では承認事項とせず、全体としての目的と目標を承認事項とするのか。また、数値的目標は、毎年度、協議・承認とする方針か。

→【平子主事補】はい。

・【渡邊委員（代理 児玉氏）】町としてのコミュニティバスのあり方・方向性を決めるもので、具体的な指標はコミュニティバスの利用者数やそれにかかわる各種収入で考えていくのか。

→【平子主事補】そのように考えている。

→【渡邊委員（代理 児玉氏）】昼間の買い物需要にあわせた運行と通勤のための運行と大きく2つの利用目的があり、指標の中で、企業向けに周知活動をどれだけ行ったか、バスサポート隊と協働して何をやったかという指標をもって振り返りをしていくことも重要ではないかと考える。

→【松尾会長】運行支援を数値目標で考えると、前年度にあわせれば現状維持で新たに展開していかないということになり、展開していくとしても設定する数値がよくわからないということになってしまう。数値目標だけではなく、取り組みとしての目標も設定して実行し、振り返って評価をすることが必要になると思う。令和2年度の目標は次回会議にて承認するとしても、数値以外の目標も設定できるようにした方がよい。

・【松尾会長】関連して、地域公共交通網形成計画を策定している地域が全国で520程あり、地域公共交通網活性化再生法の中に計画を定めることができるとの規定がある。地域公共交通網活性化再生法を枠組みで法定協議会というものができ、その中で計画を策定すると法定計画となり、計画をもとに関係者が同じ方向に進んでいくため、事務局が変わっても全員が同じ意識をもって取り組んでいくことができる。検討中ではあるが法改正がされれば、地域公共交通計画の策定が努力義務となる。策定するにあたっては、今後、企業と連携してやっていくと事業を持続して行うことができる可能性がどれほどあるのか、また、利用者、企業のニーズなど調査して把握する必要がある、適切なアンケート調査を行うよいきっかけとなる。計画の策定について検討してほしい。可能性はどうか。

→【岩崎課長】松尾会長と相談しながら検討したいと思う。

→【松尾会長】どのようなニーズがあるのか調査する必要があると思うため、前向きに検討してほしい。

再検討の上、書面にて協議を行う

(4) 大口町コミュニティバス ダイヤ等改正（案）について

報告者：事務局 町民安全課主事補 平子

【資料4、別紙③、別紙④に基づき説明】

■改正案

- ①ダイヤの改正
- ②バス停の名称変更
- ③バス停の移設
- ④バス停の新設

■変更時期

- ①、②、④ 令和2年4月1日より改定。
- ③ 令和2年2月1日より変更。

①ダイヤの改正

(1) 基幹ルート

○毎日運行便

①北部ルート朝便の遅延解消を目的とした時刻改正に伴い、その後接続する当該便も時刻を資料4の2ページのとおり変更する。

○夕便

①「さくら総合病院前」19:35発を19:45発とし、それ以降の各停留所の発着時刻も資料4の3ページのとおり変更し、時間的余裕の確保をする。

②アピタ大口店の閉店およびMEGA ドン・キホーテ UNY 大口店の開店に伴い、「アピタ前」停留所を「メガドンキ・ユニー前」停留所に名称変更する。

(2) 北部ルート

○朝便

遅延が発生していることから「萩島集会場」8:00発の出発を早め、実際の交通状況にあわせて資料4の5ページのとおり変更する。

(3) 中部ルート

○朝夕運行便

地区から要望があり、「若宮八幡社前」停留所を新設する。

なお、ルート上であるため、資料4の7ページのとおり停留所新設に伴う他の停留所の発着時刻の変更はない。

②バス停の名称変更

○全ルート「アピタ前」停留所の名称変更案（資料4の8ページ）

【変更内容】

変更前：アピタ前 変更後：メガドンキ・ユニー前

【変更理由】

アピタ大口店が閉店し、MEGA ドン・キホーテ UNY 大口店となるため。

【利用者への事前説明】

現「アピタ前」停留所への案内文の掲示、バス車内、町ホームページ等での事前周知を行う。

○南部ルート「外坪巾集荷場」停留所の名称変更案（資料4の11ページ）

【変更内容】

変更前：外坪巾集荷場 変更後：外坪巾集会場

【変更理由】

「外坪巾集荷場」が「外坪巾集会場」に名称変更したため、停留所も同様に変更する。

【利用者への事前説明】

現「外坪巾集荷場」停留所への案内文の掲示、バス車内、町ホームページ等での事前周知を行う。

③バス停の移設

北部ルートおよび中部ルート「二ツ屋」停留所の移設案（資料4の9ページおよび別紙③）

【移設理由】

令和元年5月20日付で「二ツ屋」停留所を移設したが、利用者の更なる安全確保のため、停留所を移設する。

【利用者への事前説明】

停留所およびバス車内への案内文の掲示、移設予定場所へ臨時バス停を設置し周知を行う。

④バス停の新設

○中部ルート「若宮八幡社前」停留所の新設案（資料4の10ページおよび別紙④）

【設置理由】

地区より停留所設置の要望があったため。

【利用者への影響】

「若宮八幡社前」停留所が増えることによる各停留所の発着時刻の変更はなく、現行ダイヤおよび利用者への影響はない。

【事前確認事項】

令和元年5月22日に江南警察署、あおい交通株式会社、江南市と現地立会のもと支障なしと確認済み。

<質疑応答>

- ・【小川委員（代理 高岸氏）】中部ルート「若宮八幡社前」バス停新設について、地区から要望があつて設置するものであるため、利用者は少なからずいると思われ「若宮八幡社前」以降のバス停の時刻が変更なしとなっているが、その懸念事項として、運行事業者の乗務員の負担や遅延の可能性等事業者

とは調整済みということでしょうか。

→【平子主事補】事業者との調整はできており、ダイヤについて問題ないことと、公安協議の際に「若宮八幡社前」で時刻調整の停車は認められないとのことだったため、できる限り停車時間を短くしダイヤ通りの運行をできるようにこのダイヤ設定とした。

→【小川委員（代理 高岸氏）】バス停の移設および新設の際は、運輸支局に届け出が必要となるため、お願いしたい。

・【松尾会長】「アピタ前」バス停が「メガドンキ・ユニー前」に変更があるように、商業施設等地域にわかりやすい名前がよいと思うので、既存のバス停においてもこういう名前に変えたほうが親しみやすい等意見があれば言ってもらえるとよい。

全会一致で案のとおり承認

5 その他

・【前田委員】クロスセクターベネフィットについて、高齢化が進んでいる中で、大口町では近隣の自治体に比べて医療費の負担が大きい。その中で、名古屋市では敬老パス発行の経費をかけても医療費軽減等の経済効果があり、他の自治体でも同じようなデータが出ている。大口町でも免許返納者や高齢者へのパスカード等の取組をやってみたらどうかという考えもある。クロスセクターベネフィットというものは狙って成果がでるものなのか、やってみた結果がそういうものだったのか。

→【渡邊委員（代理 児玉氏）】大口町を例とすると、コミュニティバスを充実させることで経費は増えるが、医療費が減って町全体の経費が下がっていくという考え方がクロスセクターベネフィットである。クロスセクターベネフィットは、効果を計ることが非常に難しく、県内の市町村でもいろいろな取組みをしているが、医療費がどれほど減ったか計っているところはほとんどないと思われる。一方で、いろいろな市町村の取組みの中で、高齢者の無料制度を運転免許自主返納者へ拡大させることや、75歳以上への無料制度を70歳以上と無料の範囲を広げて利用者が増えているところもある。周知が先なのか施策が先なのかはやってみないとわからないところがあり、大口町と協議を続けていくことが大切であり、町としてやれるところでどうなのか具体的に検討していくとよいのではないかと。

→【松尾会長】クロスセクターベネフィットは、医療費はもちろん、外出して商業施設で買い物をしたり、渋滞が減ってその経済損失が減ったり等出そうと思えばいろいろな面に出すことができるが、効果があるのか実際に出すことは簡単ではなく、特に医療費は長期的にみて効果があるかどうかわかってくる。都市部は公共交通が充実していると乗り換えができることがあり、東京を例とすると乗り換えでかなりの距離を歩き、歩行距離を延ばす要因となる。地域によってうまくいくかどうかは変わってくるが、検討することは重要である。